

住民視点から策定する

地域共生型認知症ケアパス のすすめ

社会福祉法人 浴風会
認知症介護研究・研修東京センター 佐藤信人

○人口構造の変化

2060 39.9% 高齢化率

○世帯（家族）の変化

2035 高齢世帯4割
うち単独世帯4割

○認知症の人の増加

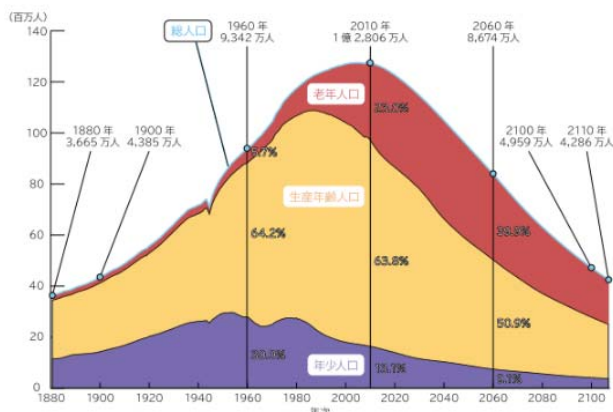
2025 730万人

※ 地域包括ケアシステム

※ 地域共生社会

※ 認知症ケアパス→**地域共生型へ**

日本の将来推計人口



認知症施策推進大綱

(令和元年6月18日)

認知症ケアパス

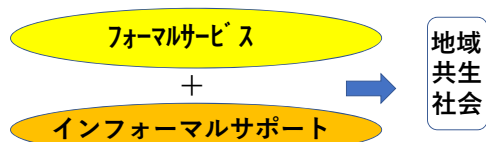
→2025 KPI 作成率100%

- ・未作成の市町村に作成を促す。
- ・作成市町村は点検する。
- ・認知症の人・家族の意見を踏まえる。

- ・地域支援推進員が中心となり、**地域住民の活動（インフォーマルサポート）を盛り込み地域共生社会を目指す。**
→**地域共生型ケアパス**

地域共生型認知症ケアパス

- ・地域支援推進員が中心となり、**地域住民の活動（インフォーマルサポート）を盛り込み地域共生社会を目指す。**



認知症ケアパス

○新オレンジプラン

「状態に応じた適切な医療・介護サービス等の提供の流れ」

○ケアの流れを変える

「認知症になったら病院や施設で暮らさざるを得ない」を、



「認知症になっても住み慣れた地域の良い環境で暮らす」に変える。→**本当にできるか？**

始点

認知症になっても、住み慣れた我が家、家族・知人がいる地域で暮らし続けたい。

それは、ワガママですか？

認知症の人の意思の尊重
→「認知症の人を大切にする」

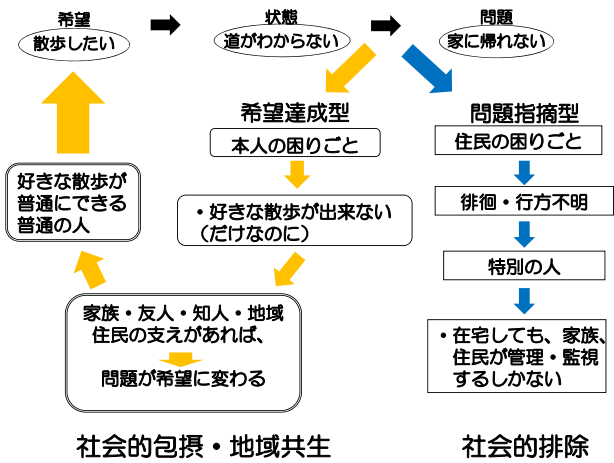
良い環境
→「人々の支援や社会サービスがある地域であれば、」

自分らしく暮らし続ける
→「認知症になっても家族・地域社会から認められ、切り離されることがない。」

認知症になっても
住み慣れた自宅や地域で暮らし続けたい。
(自然で素朴な願い)



自宅には家族がいる。地域には友人、知人がいる。
優しくしてくれる(ハズだから・・・)



社会的包摂・地域共生

社会的排除

地域包括・共生型ケアパスづくりのワークシート

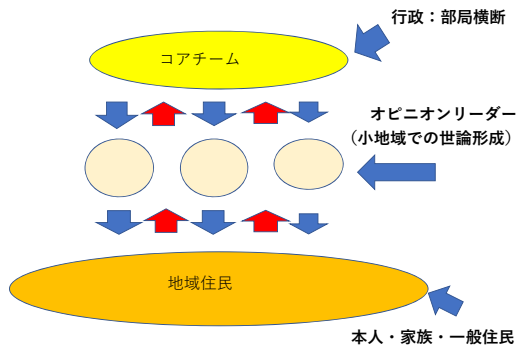
※力は外からやっここない。力は私たちの内にある！
※自分の町のことから、自分達で考える！

私はここにいます

地域包括・共生型ケアパスづくりのワークシート						
本人						
家族						
友人						
近隣						
町内会						
商店銀行						
専門機関						
行政						

※地域にあって役に立つものは、全て社会資源として参画 N / SATO

ケアパス作成体制



地域共生型認知症ケアパス作成

コアチームの構築

(部局横断・地域支援推進員、
地域包括支援センター等・・・)

「地域共生型認知症ケアパス」

○定義

住民が、認知症になっても長年暮らし続けた自宅や地域で不安なく暮らし続けるようになるために、公的サービス及び住民の自発的活動の開発、充実、連結を企画、表示したもの。

○機能

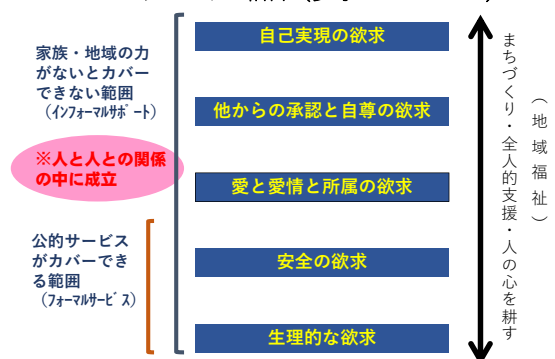
作成過程において住民自身が支援の担い手としてエンパワーメントされ住民が自発的活動力を獲得する（プロセス重視）

- ・強いリーダーシップ（首長、部局長等）
- ・堅固で柔軟なコアチーム
- ・地域密着型活動を展開している者によるコア・コアチーム（部局横断で希望する者中心）
- ・コア・コアに小地域のオピニオンリーダーを加えたコアチーム
- ・初動段階での意識共有・統一（繰り返し行われる勉強会、演習）
- ・①優れた主導者
- ・②自由な議論による高いモチベーション（疑問の解消、価値感の共有、役割分担）
- ・③過負担の防止（個々のチーム員の事情）

- ・④住民を裏切らない工夫
 - ・⑤住民の参加を得る工夫（日常生活圏域の小地域ベースでの活動）（地域の名士、中心人物を大切にする工夫）
 - ・住民エンパワーメントの共同作業の工夫（共同しないと達成できないテーマ）
 - ・共同作業に不可欠な「楽しい」という要素（楽しさをつくりだす工夫）
- アイスブレイク
小道具、お茶やお花
話し合いのルール

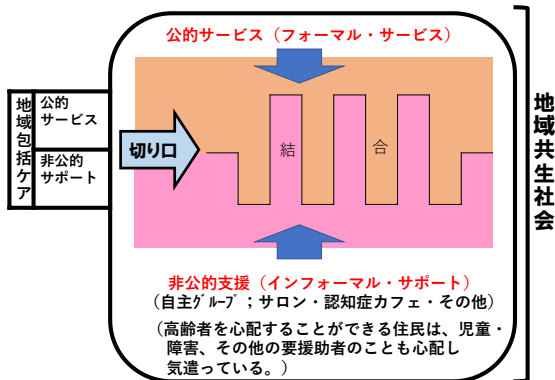
認知症の人が幸せに暮らせるまちづくり

公的（フォーマル）サービスと非公的（インフォーマル）
サポートの結合（参考；AHマズロー）



認知症ケアを切り口にした地域共生社会づくり

(全世代型・高齢、児童、障がい等の対象者横断型)



- 第3の分権
- 強制→共生
- 支援すれども規制せず

- 「力」は外からはやってこない。「力」は、内にある。

○地域共生社会の定義「ニッポン一億総活躍社会（閣議決定）」

「子供・高齢者・障害者など**全ての人々**が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会」

○佐藤の考え

「**あなたが幸せでなければ、私は幸せではない**」という思い遣りにあふれた住民で満たされた地域・街

「我が事・丸ごと」の本質(佐藤)

- 本質:「人々に、たとえ、生活していく上で様々な支障があっても、**普通に、幸せに暮らせる社会**」の**理念**
→住民の参画が必須

我が事:「自分のことではない、他人のことなのに、その人の、心の傷、痛み、不安などを、自分のこととして感じ取ることができる気持ち」をもった住民がたくさんいる。

丸ごと:

- ①児童・高齢・障がいなど、人の一面だけみたサービスだけではなく、一人の生活者として、その人全体をみる(丸ごと)」仕組みがある。
- ②公的で専門的なサービスと、住民の自発的な支援を束ねて総合的に提供する(丸ごと)」仕組みがある。
※人は専門的なサービスだけでは幸せになれない！
※人は、人によってこそ幸せになる！

認知症の人は、人々の優しい気持ちを
引き出してくれる

“地域の宝物”



最大の敵は “無関心”